

## 第4年 社会科学学習指導案

令和3年11月17日(水)

授業者 大森 孝志  
場 所 4年教室

### 1 単元名 残したいもの 伝えたいもの ～地域の宝『安来節』を受け継いでいくために～

### 2 目標

- 県内の文化財の一つである安来節について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 安来節の保存や継承のための人々の思いや努力を捉えるとともに、安来節の社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- 地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

### 3 主題設定の理由

#### (1) 単元について

本単元は、学習指導要領(4)のア(ア)(ウ)、イ(ア)に関わるものである。

本単元は、地域の人々が受け継いできた地域の文化財について、保存や継承に関わる人々の働きや願いを調べ、地域の文化財を受け継いでいくことの意味を考えることを通して、文化財には、地域の発展を思う人々の願いがあることを理解できるようにする。また、単元を通じて、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、地域社会の一員として文化財を受け継いでいくためにできることを考えようとする態度を養うことがねらいである。

文化財については、安来市発祥で全国的にも親しまれている芸能『安来節』を取り上げる。安来節は19世紀中ごろに今の形が出来上がったとされ、その後、安来市出身の初代渡部お糸が全国巡業を行うなど、次第に世の中に広まっていった。また、のちに、この安来節の唄に合わせた踊りや銭太鼓なども生まれ、人々の生活にも潤いを与えてきた。

本単元を学習する上で見学や聞き取りを行う際には、安来節の保存や継承に関わる人々から、歴史的背景、保存や継承のための働きなどを直接聞くことで、文化財に込められた地域の人々の願いが具体的に理解できるようにしたい。しかし一方では、安来節に関わる後継者不足や若者のこうした地域芸能離れといった社会的な課題も見られる。そこで、地域の人々が受け継いできた文化財を今後も受け継いでいくために、自分たちができることを考えたり選択・判断して表現したりすることで、地域社会に対する誇りと愛情を育てていきたい。

#### (2) 児童について

省略

### (3) 指導について

#### ○視点1について

「出会い」の場面では、県内の文化財の写真を白地図に貼る作業を通して、どの地域にも、こうした文化財が長い間その地域で大切に受け継がれ現在も残っていることを知る。そして、その中で児童にとって一番身近な『安来節』を取り上げ、単元の学習を進めていく。まず、家庭で安来節に関するインタビューを行うようにし、その結果から、安来節が世代を超えて親しまれてきたことを実感させた上で、「どうして安来節は長い間人々に親しまれてきたのだろうか」という単元の中心学習問題を設定し、予想した上で学習計画を立てていく。学習問題を意識させたところで、安来節演芸館に行き、生の安来節公演を鑑賞し、安来節のよさやおもしろさを味わわせる。

「追究」の場面では、出合いで提示した学習課題を追究していくことになる。「安来節がどのようにしてできたか」、「唄にどんな思いが込められているか」、「どのように世の中に広まっていったか」、「時の経過とともにどのように変化していったか」、「どのような人たちがどのように受け継いできたのか」といった問いを教師の提示した資料をもとに考えたり、インターネットで調べたり、保存会の方に聞き取りを行ったりして追究していく。これによって、単元の中心概念である安来節の保存・継承に携わってきた人々の思いや、様々な工夫、努力に気付くことになると考える。その際、「時期や時間の変化」「場所や広がり」といった見方・考え方の働かせ、比較したり、人々の生活と関連付けて考えさせたい。

「広げる」の場面では、安来節の継承に関わる課題について考えいく。「追究」の場面では、多くの人の努力や工夫によって安来節が今日まで親しまれてきたことが分かっている。そこで、これからの安来節の存続について不安視される資料を提示し、「このままでよいのだろうか」と投げかけることで、安来節を残していくためにはどうしたらよいか考えていこうとする意欲を喚起させたい。

#### ○視点2について

「出会い」の場面で、児童にとって身近な教材について中心課題を設定し、その課題と1時間1時の学習活動を結びつけた振り返りをするすることで、児童の学びが単元を通してつながっていくようにする。また、評価計画を立て、それぞれの学習過程において社会的事象の見方・考え方を働かせていくよう意識して指導することで、児童に身に付けさせたい力の見取りを継続的に行い、指導と評価の一体化を図っていく。

1時間の学習のまとめの場面では、「何を学習したのか」「何が分かるようになったのか」を子どもからの発言をみんなでまとめて文章化していくようにする。また、その後、児童個人の振り返りを行うが、課題に即した具体的な学びや思いが記述できるようアドバイスをしたり、板書を工夫したりするようにしたい。

## 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している。</p> <p>② 県内の伝統や文化について、博物館などを見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめている。</p>	<p>① 文化財や年中行事の歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現している。</p> <p>② 地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりしたことを表現している。</p>	<p>① 県内の伝統や文化について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>② 学習したことをもとに、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考え社会生活に生かそうとしている。</p>

5 評価計画

	評価の観点	方法	支援が必要な児童への手立て
出 合 い	① 必要な情報を集め、県内のどこにどんな文化財が残っているのかを理解している。【知・技①】	発言内容 白地図	・県内各市町村の代表的な文化財の写真を大きな白地図に貼る活動を通して、県内どこでも文化財があることを理解させる。
	② 中心学習課題について予想や学習計画を立て、主体的に追究しようとしている 【態度①】	発言内容 提示カード	・中心学習課題を追究するための「問い」を黒板掲示用のカードに書かせ、発表後内容ごとに分類し、学習の見通しを持たせる。
<b>安来節公演の鑑賞・安来節演芸館の見学</b>			
追	③ 必要な情報を集め読み取り、安来節が、どんな時代背景の中、どんな思いでつくられたのか考えている。 【思・判・表①】	ノート	・安来節の一節を例として取り上げ、その歌詞でどんなことを人々に伝えたかったのかを考えさせる。
	④ 必要な情報を集め、安来節がどのように世に広まっていったのかを理解している。【知・技①】	ノート	・資料のどの箇所が安来節が世の中に広まっていった要因なのか考えさせ、線を引かせるようにする。
	⑤ 必要な情報を集め、昔からの安来節と形を変えた新しい安来節とを比較し、移り変わりについて考えている。【思・判・表①】	発言内容 ノート	・正調安来節とは形を変えた安来節・踊りなどの動画を見せ、比較し、その違いに気付かせ、どうして新しいものができたのかを考えるよう助言する。
究	⑥ 安来節に対する保存会の方の思いや継承していくための取組について理解している。【知・技①】	発言内容 ノート	・聞き取り前に、ポイントを明確にしておくこと、また、ゲストの思いをしっかりと感じるように指導しておく。
	⑦ 必要な情報を集め、多くの人が安来節の継承に関わっていることを理解している。【知・技①】	発言内容 ノート	・資料から様々な立場からの活動に対して、どう感じたかを聞いたり、ノートに記録させたりする。
	⑧ 今まで得た情報を整理し、長い間安来節が親しまれてきた理由について考え、表現している。 【思・判・表②】	発言内容 ノート	・今までの学習の足跡（掲示等）を振り返らせ、問題に大きく関わる点をノートに書きださせ、どうしてそう思ったか考えさせるようにする。
	⑨ 調べ学習や友達の発表から、他 ⑩ 地域の文化財や年中行事も、それに関わる人々の工夫や努力によって現存していることを理解する。 【知・技①②】	児童作成資料 発表内容 ノート	・児童が参考になっている資料を確認し、どうして今も残っていると思うのかを問いかけたり、助言したりする。
	⑪ <b>本時</b> 100年先も安来節を残すにはどうしたらよいかを考えようとしている。 【態度②】	発言内容 ノート	・提示した資料から、安来節を残していくためには、どんな点を考えていかなければならないか理解させるようにする。
広 げ る	⑫ 安来節の継承に関わって、自分にできることを考え、選択・判断している。 【思・判・表②】	発言内容 ノート	・アイデアの中から現実的なものを考えることこそが実現に向かうことに気付かせ、選択・判断させるようにする。

6 本時の学習（11／12時間）

(1) 目標

安来節の今日的な課題を理解し、これからの安来節の保存・継承について考え、表現する。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 本時の展開

学習活動	教師の支援
<p>1. 「安来節」が長い間人々に親しまれてきたことを思い起こす。</p> <p>2. 提示した資料を基に、安来節の今日的課題を理解する。  <input type="checkbox"/> 3つの資料から気付いたことや考えたことを発表する。                      ・保存会の会員が年々減ってきている。                      ・全国の大学生が安来節を知らなくて残念だ。</p>	<p>・ 掲示物をもとに、安来節の継承のために、いろいろな立場で様々な取組をしてきたことを思い起こさせる。</p> <p>・ 安来節の認知度に関わる調査、年度別の安来節演芸館の入場者数や安来節保存会の会員数のデータからどんなことが分かるか読み取らせる。</p> <p>・ 今のままでは、将来、安来節の存続が危ういという実感をもたせ、本時の学習問題につなげていく。</p>
<p>100年先も「安来節」を残していくためには、どうすればよいのだろうか。</p>	
<p>3. 学習問題を考え、話し合う。  <input type="checkbox"/> ミニボードに自分の考えを書く。                      ・保存会をもっといろいろな地域につくる。                      ・市内のお祭りで、もっと唄ったりおどったりする。                      ・安来のいろいろな所に安来節の看板を付けたり、音楽を流したりする。                      ・自分たちが大人になった時に、子どもに教える。</p> <p>(<input type="checkbox"/> ペアで考えを伝え合う。)</p> <p><input type="checkbox"/> 全体場で考えを出し合い、話し合う。</p>	<p>・ 今までの継承に携わってきた人たちの思いを大切にしながら、安来節のよさを後世にも伝えていくことを押さえるようにする。</p> <p>・ 理由付けをしてアイデアを考えていくように助言する。</p> <p>・ 考えにくい児童には、例えば、「若い人にも興味をもってもらうためにはどうしたらいいのだろうか」といったような視点を与えて考えさせる。                      (ペアで考えを伝え合う中で、感想やアドバイスをもらい、自信をもって全体での発表に臨めるようにする。)</p> <p>・ どの考えが最もよいかという話し合いにはしないが、友だちの考えのよさに気づき、発表し合うようにしたい。</p> <p>・ 出された考えの共通点を見付けさせ、児童の考えを整理する。</p>
<p>4. 本時の振り返りをする。</p>	<p>・ 学習の振り返りカードを基に、本時の学習の振り返りを書き、数名の児童に発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価】〈主体的に学習に取り組む態度②〉                          提示した資料から安来節の今日的課題を理解し、100年先も安来節を残すにはどうすればよいかを考え、表現している。</p> </div>

(3) 研究の視点

本時に提示した資料は、安来節の保存・継承問題を自分事の課題として捉え、どうすればよいかを考える意欲につながったか。

◇ 「知識」と「問い」の構造図 残したいもの 伝えたいもの ～地域の宝「安来節」を受け継いでいくために～ (12時間+見学2時間:合計14時間)

【学習指導要領との関連】  
第4学年 内容(4)

ア 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。  
イ (ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめること。  
エ (イ) 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。

【単元目標】

○地域の文化財について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を身に付けるようにする。

【知識及び技能】  
○安来節の保存や継承のための人々の思いや努力を捉え、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断し、表現する力を養う。  
○地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考えたうえで、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りを愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。  
【学びに向かう力、人間性】

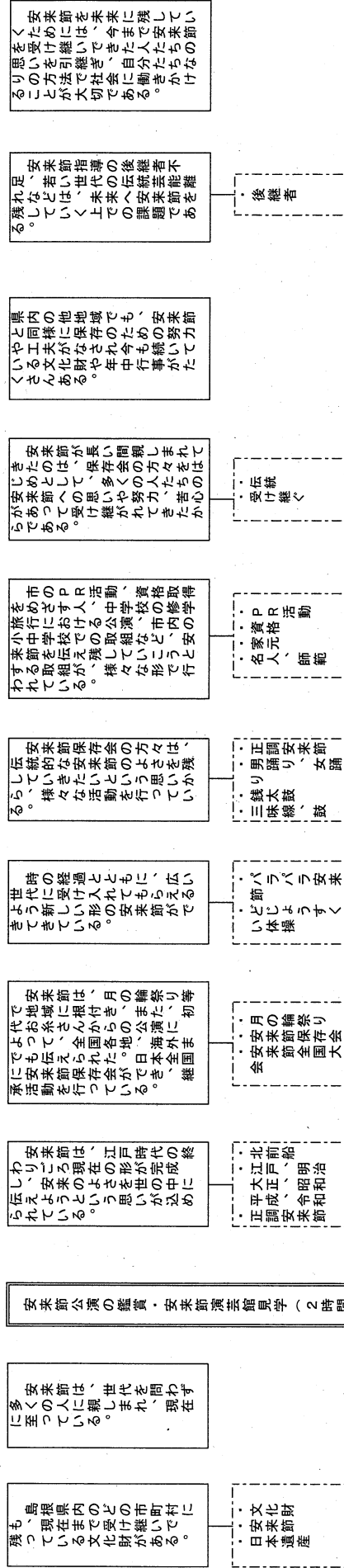
【中心概念】

安来節に携わる人々は(四代目お糸さん、安来節保存会の方々、安来節演芸館で働く人々等)は、安来節を保存・継承しているという強い思いをもち、様々な工夫や努力をしている。

【中心学習問題(単元を貫く問い)】

どうして安来節は、長い間人々に親しまれてきたのだろうか。

【具体的知識】



社会的事象の見方、考え方を養い、問いに着目して調べる。

時代や時間の経過に着目し、人々の生活と関連付けて考える。

時代や時間の経過、場所の広がりに着目し、人々の生活と関連付けて考える。

安来節の継承について、事象や人々の相互関係に着目し、比較したり、人々の生活と関連付けたりして考える。

安来節と比較しながら、人々の生活との関わりを考えて調べる。

事象や人々の相互関係に着目し、安来節を未来に残していくために自分たちができることを考え、選択・判断する。

【問いと資料】

- ① 島根県には、どのようなか文化財や年中行事があるだろうか。  
・島根県の白地図  
・県文化財写真カールの
- ② どうして安来節は、長い間人々に親しまれてきたのだろうか。  
・保護者へ行った安来節インタビューの
- ③ 安来節はどんな思いが込められてつくられたのだろうか。  
・安来節の歌詞資料  
・保存会作成資料
- ④ 安来節はどのようか。に世の中に広がっていったのだろうか。  
・お糸さんの公演  
・世界地図
- ⑤ 安来節は昔も今も同じなのだろうか。  
・パラパラ安来節  
・動画
- ⑥ 安来節保存会の方は、どんな活動をしていいるのだろうか。  
・ゲストティーチャー  
・安来節の修学旅行の歴史
- ⑦ 安来節を伝え、残しているのは、保存会の方だけだろうか。  
・どげなかね8月号の記事  
・中学校の修学旅行の歴史
- ⑧ 安来節は、どうして多くの人々に愛され、間接的に残ってきたのだろうか。  
・今までの資料  
・見学時の記録
- ⑨⑩ 県内の他地域の文化財や年中行事を比べて、違いや関わりを調べる。  
・作成した発表資料
- ⑪ 100年先の安来節を残していくためには、どんなことをしたらよいか。  
・民謡の認知度調査結果  
・演芸館年度別入場者数  
・保存会年度別会員数  
・振返る掲示物
- ⑫ 安来節を未来に残していくためには、自分たちができることはどんなことだろうか。  
・これまででの学習を振り返る掲示物

【問題解決的な学習の過程】

出 合 い

追 究

広 げ る